

全国各地にある35の国立公園。

日本の国立公園には、
有名な観光地も多く含まれており、
知らないうちに国立公園を
訪れているかもしれません。

そこには、四季折々に表情を変える
美しい自然があり、
日本を代表する風景やいきものが
多く存在します。

世代を超えてすぐれた自然に感動し、
楽しむことができるように、
その風景を守り、
後世に伝えようとする場所でもあります。

世界でも稀な、自然と人の暮らしが
ともにある国立公園。
壮大な景色や手つかずの
自然だけではなく、
その土地で生きる人々が、
自然と調和して作り出した
暮らし・伝統文化・食など、
そこにはさまざまな物語があります。



日本の国立公園



国立公園は、時代のニーズにあわせて
指定が行われてきました。
現在の多様な国立公園があるのは、
時代とともに風景や自然の評価が
変化・多様化してきたからです。

- ▶ 名所・旧跡・伝統的な探勝地
- ▶ 山岳など原始性の高い自然の大風景
- ▶ 居住地に近接したレクリエーションに適した地
- ▶ 海蝕崖・リアス式海岸などの海の風景
- ▶ 自然性の高い生態系の景観
- ▶ サンゴなどの海中景観
- ▶ 野生生物の生息地
- ▶ 広大な湿原景観
- ▶ 生物多様性保全、環境文化型

穏やかな海に大小の島々がうかぶ瀬戸内海。
同じ展望地からみる景色も、季節や時間を変えると
色やひかり、ふんいき、いつも違う姿を見せてくれる。
さて、今日はどんな景色がみられるのかな？



瀬戸内海国立公園

日本で最初に指定された国立公園

1934年（昭和9年）に雲仙・霧島とともに日本で最初の国立公園に指定されました。

国内で最も広い国立公園

1府10県にまたがり、海域を含めると90万haを超える、国内で最も広い国立公園です。明石・紀淡・鳴門・関門・豊予の5つの海峡に囲まれた地域のうち、広い海域とそこに点在する島々、それを望む陸地の展望地が公園区域として指定されています。



交易の栄えた瀬戸内航路、今も残る港町

瀬戸内海は、古来より国内外を結ぶ海上交通の大動脈でした。江戸時代には瀬戸内海航路が整備され、北前船や朝鮮通信使などが国内外から来航し、潮待ち・風待ちのために立ち寄る港町は、人と文化が交流し、繁栄しました。今でも牛窓・下津井・鞆の浦・尾道・御手洗・室積などの歴史情緒ある町並みが各地で見られます。また、瀬戸内海は複雑な潮流と地形のため、操船に長けた塩飽水夫や村上水軍が活躍していました。

瀬戸内海国立公園の移り変わり

古代～中世 (7～17世紀初め)

「万葉集」・・・瀬戸内海の117か所が詠まれる
「古事記」「日本書紀」「風土紀」・・・瀬戸内海の海や島を舞台にした神話・伝説が記される
「伊勢物語」「土佐日記」「源氏物語」など・・・住吉、芦屋、明石、須磨などが名所化される
「平家物語」「太平記」などの軍記物・・・源平合戦跡地が名所化される

瀬戸内海の風景は、住吉、須磨、屋島、壇ノ浦など名所として、古代から人々に賛美されていた

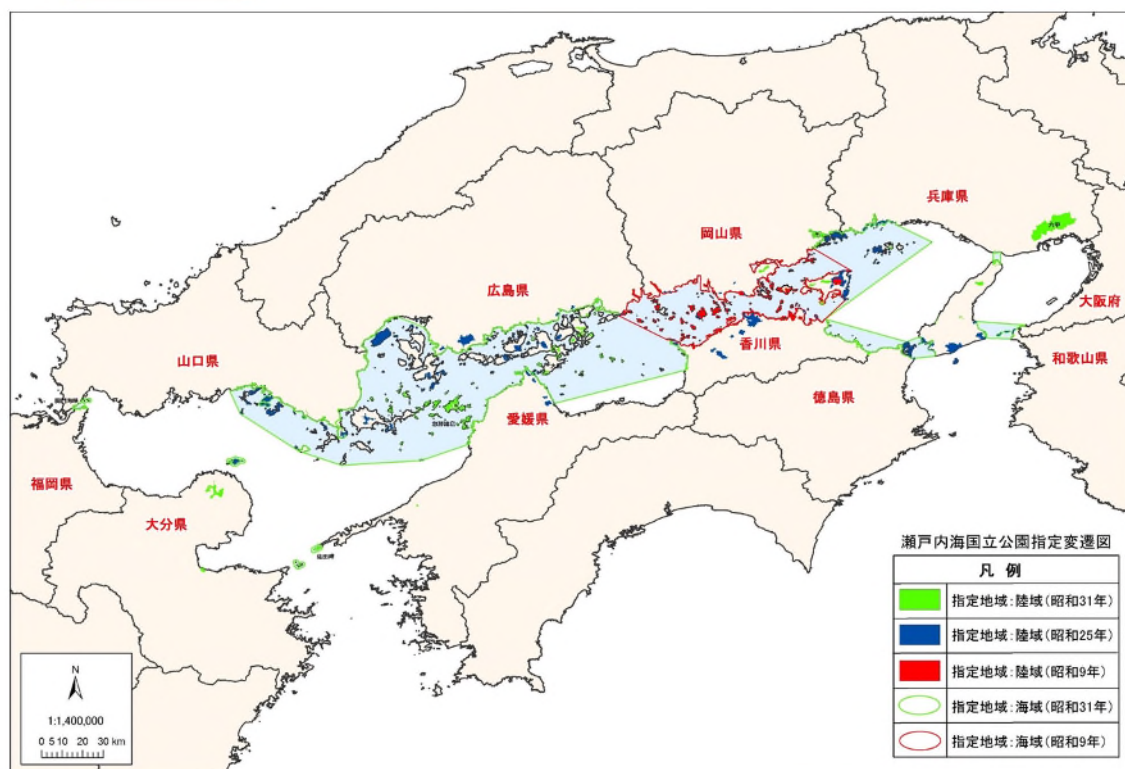
近世 (17～19世紀初め)

ドイツ人医師・シーボルトが瀬戸内海の多島海景観を賞賛し、旅行記に記す
その後も来日した欧米人が、瀬戸内海の風景を絶賛し、そのようすを旅行記に記す
1860年、ドイツの地理学者であり、シルクロードを定義・命名したフェルディナント・フォン・リヒトホーフェンが旅行記に「the inland sea」と記し、その訳語から「瀬戸内海」という言葉が生まれる

近世になると、瀬戸内海の風景は欧米人から賞賛された。
その影響もあり、それまでの個々の名所から瀬戸内海全体を一つの美しい景観としてとらえるように

近代～現代 (19世紀～)

1872年・・・世界で初めての国立公園「イエローストーン国立公園」がアメリカに誕生
1911年・・・香川県出身の国会議員・小西和が瀬戸内海の総合的な書物「瀬戸内海論」を出版
1921年・・・世界の各地で国立公園が指定される中、富士山に関する国立公園設定の請願が採択
これをきっかけに日本でも16の国立公園候補地で実地調査を開始
1929年・・・候補地を調査中、理学博士・脇水鐵五郎が鷺羽山からの優れた展望を発見
国立公園委員会で、候補地を屋島・小豆島から備讃瀬戸一円に広げることを提案
1931年・・・「国立公園法」が制定
1934年・・・日本で初めての国立公園「雲仙」「霧島」「瀬戸内海」が誕生
(昭和9年) 小豆島、屋島、鷺羽山、王子ヶ岳、仙酔島など島しょ部を含む備讃瀬戸が指定
1950年・・・瀬戸内海国立公園 1次拡張
(昭和25年) 新和歌浦（和歌山県）～姫島（大分県）の島しょ部や自然環境のすぐれた場所、海水浴場、多島海景観を眺められる展望地が新たに指定
1956年・・・瀬戸内海国立公園 2次拡張 現在の国立公園区域が確定
(昭和31年) 海域、海水浴場やキャンプ場など利用拠点になる地域を新たに指定



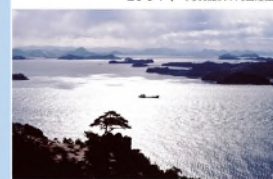
鷺羽山から眺めた備讃瀬戸



1921年 指定当初 (倉敷市所蔵資料)



1964年 (写真提供: 河田隆弘)



1975年 (写真提供: 河田隆弘)



2014年



岡山県 瀬戸内海国立公園 瀬戸内海国立公園の代表的な景勝地・鷲羽山。そこから眺める海と島々、瀬戸大橋が盛り成すパノラマ風景はまさに絶景で、特に朱や金の空に鳥影が映える秋の夕景は格別です。麓から山頂までの遊歩道をのんびり歩きながら、瀬戸内海屈指の多島美を楽しめます。

瀬戸内海国立公園の代表的な景勝地・鷲羽山。そこから眺める海と島々、瀬戸大橋が盛り成すパノラマ風景はまさに絶景で、特に朱や金の空に鳥影が映える秋の夕景は格別です。麓から山頂までの遊歩道をのんびり歩きながら、瀬戸内海屈指の多島美を楽しめます。

輝き続ける島と海

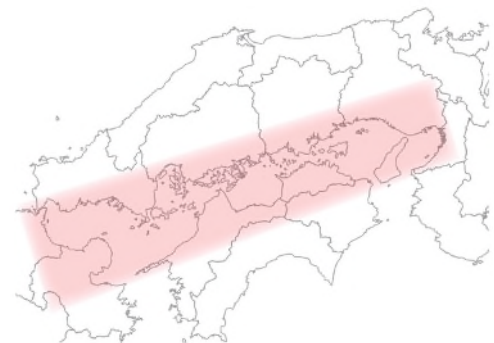
- 自然と暮らしが調和する内海多島海景観 -

瀬戸内海国立公園は、雲仙、霧島とともに日本で最初に国立公園に指定されました。明石・紀淡・鳴門・関門・豊予の5つの海峡に囲まれた地域のうち、広い海域とそこに点在する島々、それらを眺める展望地などが公園区域に指定されており、海域を含めると900,000haを超える国内で最も広大な国立公園です。

瀬戸内海国立公園の特長

- ・穏やかな内海に大小さまざまな島が点在する多島海景観
- ・独特な地形と複雑な潮の流れからうまれる渦潮
- ・白い砂浜と青々としたクロマツが映える白砂青松の海岸
- ・島の段々畑や寺社仏閣、風待ち・潮待ちの港町など人文景観

瀬戸内の穏やかな気候と自然、人の暮らしと歴史文化が一体となった親しみやすい風景を見ることができます。



交易の栄えた瀬戸内航路と今も残る港町

瀬戸内海一帯は、古くから人が暮らし、国内外からの船が行き交う海上交通の要衝でした。動力船のない時代は、風や潮の流れを読んで航行するため、風や潮の向きが変わるのを待つための港町が栄え、人とともに文化や産業も出入りし、各地で発展しました。今でも牛窓・下津井・鞆の浦・尾道・御手洗・室積などの歴史情緒ある町並みが見られます。一見、穏やかな瀬戸内海ですが、島間の狭い瀬戸や広い海域を繰り返し、また、潮が東西から入出するため流れや早さは複雑です。そこでは、操船に長けた塩飽水夫や村上海賊が活躍し、その拠点には数多くの遺構が残されています。

評価されてきた瀬戸内海の風景

瀬戸内海の風景は、中世より国外から賞賛されてきました。船が進み、方向を変えるたびに島影と海面の光が変化し、四季や時間によって色彩が移ろう風景に、シーボルトやフェルディナント・フォン・リヒトホーフェンなど瀬戸内海を訪れた人々は魅了され、そのようすを紀行文や地誌などに残しています。また、紀行文などでは、多島海景観だけでなく、沿岸の段々畑や農村・漁村、寺社仏閣など人の生活風景にもふれています。国立公園指定にむけた調査では、鷲羽山(岡山県)から眺める多島海景観が決め手となり、備讃瀬戸を中心に日本で最初の国立公園に指定されました。

瀬戸内海国立公園に
行ってみよう!



日本語



English

指定日:1934 (昭和9) 年3月16日指定

関係府県:大阪府、兵庫県、和歌山県、
岡山県、広島県、山口県、
徳島県、香川県、愛媛県、
福岡県、大分県

